

令和2年度老健事業 認知症地域支援推進員活動 報告会Q&A (令和3年3月12日)

報告テーマ：本人が発信！できる、ともに生き生き伸びていこう ～本人とこれまでの活動を振り返る～

報告：藤枝市 地域包括ケア推進課 認知症地域支援推進員 横山 麻衣氏

藤枝市 永井 三彦氏

No	質問	回答
1	認知症カフェの開催に賛同していただけるカフェがなかなか見つかりません。どのようにして見つけていますか？	藤枝市では認知症カフェを設置することを目的として捉えていません。本人がよりよく、自分らしく暮らし続けられるよう本人同士が出会える場や交流できる場、家族同士が出会い、交流できる場の必要性を感じ、施策として取り組んでいます。今後も、本人同士がどのような繋がりや、場所を必要としているのか声を聞き、ともに考えていきたいと思っています。
2	横山さんの職種や現在の課の在籍年数、認知症地域支援推進員としての活動年数が知りたいです。	所属：藤枝市地域包括ケア推進課(専任) 活動年数：6年(H27年～) 職種：作業療法士
3	横山さんは包括支援センター内の専従の推進員ですか	所属：藤枝市地域包括ケア推進課(専任) 藤枝市は地域包括支援センターが7か所(全て委託型)あり、各センターに1名ずつ推進員を配置しており、合計8名の推進員が配置されています。
4	お話されていたかもしれませんが、横山さんは地域包括支援センターの職員ですか？行政の立場からということとは直営包括ですか？	同上
5	藤枝市の方に質問です。認知症の状態の方が施策等の委員会や、地域の講座とかに出られるとき、報償費は発生していますか？	認知症施策推進会議では他の委員と同様に報償費をお支払いしました。
6	本人ミーティングの立ち上げの経緯、ミーティングの内容等について教えてください。	一人の当事者の悩みを同じ当事者に話す機会を作ったところ、当事者同士が安心して話し、悩みや希望を共有する様子があり、「診断後誰に相談して良いか分からなかった」という声から、仲間と繋がっていく必要性をともに共有し、定期的に開催することになりました。
7	永井さんの本人ミーティングの参加きっかけを教えてください。	転居後まもなく、市で年に4回程開催している若年性認知症の人と家族の交流会に参加し本人ミーティングに参加している当事者と出会い、当事者に誘われ本人ミーティングにも参加するようになりました。
8	ぶらり本人ミーティングは市の事業ですか？いつから事業化し、事業を開催しようと思ったのきっかけは？	本人ミーティングは本人の声を施策反映していくための場であり、市の事業として令和2年から定期的に開催をしています。
9	当事者同士の出会いはどのようにその機会を作られたのでしょうか。	6と同様になりますが一人の当事者同士が繋がる機会を作ったことがきっかけになっています。
10	永井さん、自身のことを発信されていて体験談が具体的でとても参考になります。自身の境遇に暗くならず前向きに生活されていると思います。周囲の人からの対応で嫌だったことや嬉しかったことはありますか？	嫌なことはなかったが自分にとって好きなことや大切なことを理解してもらえなかったことがあり、それ以降相談することを辞めてしまったことがあった。近所の人から料理を届けてくれることがたまにありありがたく感じる。分かってくれる人や相談できる人ができたことは嬉しかった。
11	永井さんと担当者の出会いを知りたいです。	転居にあたり、他県相談機関から静岡県若年性認知症支援コーディネーターへ情報提供があり、永井さん自身が相談に行き、市に繋がったという状況でした。
12	永井さんが診断後に転居しようと思ったきっかけがあれば知りたいです。	退職後、今後の生活を考えて空き家になっていた実家に戻った。
13	推進員です。永井さんが自分の状況に悲観せずに前を向いて活動されていることに感動です。質問です。永井さんがこれまでの生活の中で、相談員さんのどのようなことが役立ったり、ありがたいと感じる部分があったかを答えていただけたら幸いです。	10同様 認知症の人に出会える場を作ってくれた。私以外にそういう人はいると思う。自分の中にあった認知症の負の思い込みに気づくことが出来た。

No	質問	回答
14	永井さんが仕事や伝える活動を行う前と今とでは、何か感じることに変化はありますか。	仕事を始めたことで、時間の使い方が変わった。何にもやることのない日々は極端に辛かった。何のために生きているんだと自問自答していた。仕事を始めたことで、生活が立て直せた。しかし、システムエンジニアとして働いていた頃の充実感はない。その頃は周囲から評価してもらっていたと振り返って感じている。今後自分が評価される機会はないのかなあと感じることもある。
15	横山様に質問です。 認知症地域支援推進員の活動をする中で、静岡県様のサポートはありましたか。県と市の連携について聞かせていただきたいです。その中で特に有益だった県と市のやりとりはありますか。	令和元年度に静岡県のピアサポート活動支援事業のモデル地域として取り組む中で、ピアサポーターが活躍できる環境を県が調整してくれたことにより、認知症施策への本人参画が加速していったと感じています。現在も本人ミーティングや若年性認知症の人と家族の交流会にピアサポーターの参加を県をとお願いしており、そこで聞かれた本人の声等を毎回県にと共有しています。また、県の担当者も本人ミーティングに何度か参加してくれています。
16	横山様に質問です。 地域支援推進員の活動をする中で、県に期待するサポートはありますか	推進員が社会参加に焦点を当て活動をする中で、普及啓発や初期集中等取組んでいる様々な事業の考え方が整理されることや一体的に考えられ、施策全体が加速していくと感じています。推進員が社会参加に焦点を当てて活動がしやすいような体制や環境を整えるサポートが県からもあると良いと感じています。
17	子どもたちに行った〇×クイズの内容教えてください	永井さん、民生委員、社会福祉協議会、地域包括支援センター、市地域包括ケア推進課でそれぞれ問題を考えました。民生委員さんは地域に関すること、包括や社協、市は主に福祉に関すること、永井さんは水産高校出身の強みを生かし、魚に関する問題を出題しました。
18	身近な親族の支援者はいらっしゃるのでしょうか？	市外に住む兄がいます。
19	永井さん、家族の支援はあるのでしょうか。静岡に転居した経緯は？	12、18のとおりです。
20	血管性ということですが、疾患からきた認知症なのでしょうか、差し支えなければ教えてください	5年程前に脳梗塞を発症し、その後会社関係者から時間の管理について指摘をされ、受診し検査をしたところ、脳血管性の若年性認知症と診断された。
21	チームオレンジとの連携や県行政へ期待することがあったら教えてください	チームオレンジについては設置することが目的ではなく、これまで取組んできたことの中で、本人とともにどういう繋がりや機能を大切にしていきたいかを考えていくことが重要だと考えています。数字や形に捉われず、県・市町それぞれの立場で本人の声をしっかり聞き、本人とともに考えていくこと、地域の実情等に応じた機能や在り方を県と市町とで共有していくことが必要だと考えています。
22	認知症施策について、行政の推進員と協働で行われているのでしょうか。行政からは全てお任せという形で事業を行ってみえるのでしょうか。	藤枝市の地域包括ケア推進課に所属する専任の推進員であるため、市の認知症施策担当者と常に相談しながら、包括支援センターの推進員とも協働し取組んでいます。
視聴者から寄せられたコメント		
1	大変参考になりました。推進員の私にも永井さん同様の関係の本人さんがいます。その方にも一緒にやりたいことができる仲間が数人います。その本人が教師が夢であったことから、活かせる活動がないかと考えていました。参考になりじっせんできるように検討していきます。	

* 10.12.13.1418.19.20は、永井氏が回答されました